

後藤新平と祖父・寺門彦太郎

新潟県胎内市 寺門登志

昨年は中国の四川省で世界規模の大地震があった4年前には中越地震、更に岩手内陸地震では我が家の柱時計が止まった。この頃地震が多くなったように思う。

今は亡き祖母が、ことある毎に、関東大震災のことを語った。過日 NHK の「その時歴史が動いた」という番組で、関東大震災の一部を映像で見て、天災の恐ろしさをまざまざと見せつけられた。

その番組の中で帝都復興の尽力された後藤新平の偉業に目を見はった。

若い医師の後藤は日清戦争時代から防疫に力をつくし人体だけでなく、国政にも関与し、当時植民地だった台湾にすばらしい都市計画を実施し、さらに、満州に渡り満鉄の総裁になって、海外にまで都市計画をし続けて、帰国後は大臣もつとめ、若者の育成のためにボーイスカウトも編成した。明治から大正、昭和まで貴重な一生を駆け抜けた人だった。後藤の残した言葉の中で「人を使うには午後3時の人は使わない、午前8時の人を使う」と若者の力を信じた人だった。又、有名な「人のおせわにならぬよう」「人のおせわはするよう」「そして報いを求めぬよう」という是を残しておられる。

又、後藤新平が夢にえがいた東京復興まであと1年というところで亡くなられた事は誠に残念であった。現在の東京は、その後大東亜戦争で東京大空襲にも会ったが、その後の復興は後藤新平の引いた地図のとおり復旧している。昔の政治家の偉大さ、強さをしみじみと想った。

ふと、後藤新平という署名の免許証「写真①」がわが家にあったことを思い出し、医師としての後藤新平を思い出すよすがにもと、祖父の「医師免許試験及第の証書」を披露してみた。

第1次試験から第2次試験まで、8年かかっている。昔も医師になることは、容易ではなかったのだ。上京してこれらの試験をうけるには、地方の開業医「写真②」について3年の修行をしなければならなかった。

祖父が関川村の佐藤玄信医師のもとで使った教科書「写真③」がたまたま1冊残っていたのでこれも披露してみる。祖父の晩年は柴橋小学校の学校医を最後の仕事として亡くなられた。集合写真「写真④」は卒業式の記念写真である。

・前列左から4人目羽織袴のはげ頭が祖父彦太郎、その隣の洋服姿が校長先生。

(奥山荘郷土研究会誌第34号より)

